

## 静岡県から得られた北限記録のイトヒキオキハギ

中西 健<sup>1</sup>・渋川浩一<sup>2</sup>

### Author & Article Info

<sup>1</sup> 下田海中水族館 (下田市)  
 nakanishi@shimoda-aquarium.com (corresponding author)  
<sup>2</sup> ふじのくに地球環境史ミュージアム (静岡市)  
 koichi1\_shibukawa@pref.shizuoka.lg.jp

Received 14 March 2026  
 Revised 21 March 2026  
 Accepted 22 March 2026  
 Published 23 March 2026  
 DOI 10.34583/ichthy.65\_0\_18

Takeru Nakanishi and Koichi Shibukawa. 2026. Northernmost record of *Abalistes filamentosus* (Tetraodontiformes: Balistidae) from Shizuoka Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 65: 18–22.

### Abstract

A single specimen of the filamented triggerfish *Abalistes filamentosus* Matsuura and Yoshino, 2004 (266.9 mm SL) was collected from off Nakagi, Minamiizu Town, Shizuoka Prefecture, Japan, at a depth of 10–15 m on 26 October 2020. The specimen is deposited in the Museum of Natural and Environmental History, Shizuoka (SPMN-PI 50217). Morphological characters of the specimen agree well with those of *A. filamentosus*, as follows: dorsal-fin rays III+26 (III+25–27 in the species); anal-fin rays 23 (22–25); 3 longitudinal grooves on cheek (3–4); upper and lower rays of caudal fin greatly produced in filaments; no yellow and pale blue spots nor yellow reticulations on the body. This species is widely distributed in the Indo-West Pacific region, but, in Japanese waters, it is previously known only from the Ryukyu Islands and Kagoshima Prefecture of southern Kyushu. The presently reported specimen represents the first record from Honshu and the northernmost occurrence of the species. The finding suggests that the species was likely transported northward by the Kuroshio Current.

モンガラカワハギ科オキハギ属 *Abalistes* Jordan and Seale, 1906 はインド・西太平洋の暖海に広く分布する一群で (Matsuura, 2001), オキハギ *Abalistes stellatus* (Anonymous, 1798) とイトヒキオキハギ *Abalistes filamentosus* Matsuura and Yoshino, 2004 の 2 種が知られる (Matsuura and Yoshino, 2004; 林・萩原, 2013). このうちイトヒキオキハギは、頬に鱗列に沿った 3–4 列の縦溝があり、尾鰭両葉先端が糸状に伸長することなどでオキハギと区別される (Matsuura

and Yoshino, 2004; 林・萩原, 2013). イトヒキオキハギは東インド洋や西太平洋に分布しており (Matsuura and Yoshino, 2004; Matsuura, 2017; Psomadakis et al., 2019), 日本国内からは鹿児島湾よりも南の海域から記録されている (Matsuura and Yoshino, 2004; 林・萩原, 2013; 岩坪, 2017; 松浦, 2018; 古橋・本村, 2022).

2020 年 10 月 26 日に静岡県賀茂郡南伊豆町中木沖 (Fig. 1) にて、1 個体のイトヒキオキハギが採集された。同日、下田海中水族館に搬入し飼育を試みたが、同年 11 月 4 日に死亡したため標本とした。同個体の出現は、本州からの本種の初記録かつこれまでの分布の北限を更新するものとなるため、形態的特徴の記載と共に報告する。

### 材料と方法

計数・計測方法は Matsuura (1980) と Matsuura and Yoshino (2004) に従った。標準体長 (standard length, 以下英語表記の場合は「SL」と略記) は体長と表記し、体各部の計測は、以下の点を除き Matsuura (1980) と Matsuura and Yoshino (2004) に従い、ノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。体の左右で計数できる形質の数値は、両側の値を示した。体幅は胸鰭基部下端に接する溝部で測った。生時および鮮時の体色の記載は、それぞれ飼育時および固定直前に撮影された標本のカラー写真に基づいた。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、現在、ふじのくに地球環境史ミュージアムの魚類標本資料 (SPMN-PI) として保管されている。

### *Abalistes filamentosus* Matsuura and Yoshino, 2004

#### イトヒキオキハギ

(Figs. 2–3; Table 1)

**標本** SPMN-PI 50217, 266.9 mm SL, 静岡県賀茂郡南伊豆町中木沖 (34°36'44"N, 138°49'20"E), 刺網, 水深 10–15 m, 2020 年 10 月 26 日, 渡邊正春採集。

**記載** 計数形質と体各部の体長に対する割合を Table 1

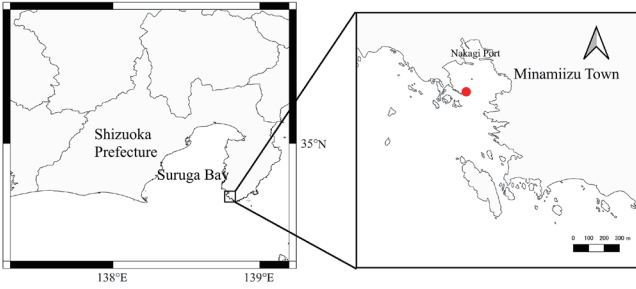


Fig. 1. Collection site of *Abalistes filamentosus*. Red circle indicates the site, *i.e.*, off Nakagai, Minamiizu Town, Shizuoka Prefecture, Japan.

に示した。背鰭最長軟条長や臀鰭最長軟条長、胸鰭長、尾鰭の最長軟条長は、飼育の際に生じた擦過傷による鰭の一部欠損により、計測不能であった。

体は側扁した卵形。体背縁は、吻端から第1背鰭起部付近にかけて緩やかな凸状の曲線を描きながら上昇し、第2背鰭基底後端から尾柄部にかけては緩やかに下降する。体側部の鱗は粗く、菱形の板状。尾柄部および尾鰭基部では後方へ行くほど鱗が次第に小さくなる。背鰭および臀鰭の基部には細長い鱗鞘がある。頬の口裂の後方付近の鱗列



Fig. 2. Fresh specimen of *Abalistes filamentosus* (SPMN-PI 50217, 266.9 mm SL) from off Nakagai, Minamiizu Town, Shizuoka Prefecture, Japan. Photographed and retouched by K. Shibukawa. Note that various parts of the body and fins were rubbed off and damaged while being kept in an aquarium; in particular, the distal parts of the dorsal and anal fins and the filamentous leading edges of the caudal fin are missing.

間が暗色でわずかにくぼみ、3本の縦溝が入るように見える。眼前に、1本の眼径長よりやや長い斜めの溝がある。鰓孔は眼の後端直下付近に位置し、小さくやや斜行する裂孔状。胸鰭基部上方に不定形の肥大鱗が数枚ある。口は小さく端位にあり、薄い肉質の口唇をもつ。第1背鰭起部は鰓孔上端のほぼ直上に位置する。第1背鰭は3棘からなり、棘条はいずれも強大。背鰭第2棘長は第1棘長の約4分の3、第3棘長は第2棘長の約3分の2。第2背鰭の起部と基底後端は、臀鰭の起部と基底後端のそれぞれ直上に位置する。尾鰭は二重湾入形で両葉後端は細長く伸長する (Fig. 3)。

**色彩** 生時の体色 (Fig. 3) — 頭部腹面 (頬部・鰓蓋部の下部を含む) および腹部とそのやや後方は淡灰褐色で、擦過傷部は白色に近い。頭部側面および体側上半部は暗灰褐色で、吻部から第2背鰭起部下付近まで、広く黄色みの強い部分に被われる。口裂後方の頬部に3本のやや斜行する淡青色の縦線が入る。鰓蓋部および体側の鱗縁は暗褐色あるいは黒色。項部 (第1背鰭起部のやや前方)、第1背鰭基底後部、および第2背鰭基底中央部に、眼とほぼ同大かやや大きな白色斑がある。項部の白色斑は背面から見るとV字状をなし、背鰭基底の白色斑はどちらも左右一対

の楕円形。第1背鰭は概ね黒褐色で、第1棘条は大部分が灰白色。第2背鰭は淡灰白色で、やや不明瞭な暗灰色の斜線が約6本入る。第2背鰭基底の鱗鞘は黒色。臀鰭は淡灰白色で、外縁に近い1/3ほどの部分はわずかに黄色みがかかる。臀鰭の基部から鰭の半分ほどの高さにかけては、各鰭条に沿って黄色斑点が散在し、鰭の中ほどの高さには暗灰色の細い1縦帯が入る。臀鰭基底の鱗鞘は淡灰白色。尾鰭は暗灰色。

鮮時および保存状態での体色 (Fig. 2) — 鮮時の体色は、生時のものとほぼ同様だが、以下の点で異なる: 第2背鰭、臀鰭、尾鰭はほぼ白色で、第2背鰭と臀鰭の基部付近には小黄色斑が散在する; 頬の3本の縦線は、暗灰褐色あるいは黒色。ホルマリン固定後、数週間以上経った保存状態では、生時・鮮時にあった黄色みはすべて失われている。

**分布** 本種はインド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域を中心に分布しており、日本国外では、オーストラリア北西部・東部およびティモール海 (Matsuura and Yoshino, 2004; Matsuura, 2022)、ニューカレドニア (Randall and Justine, 2008)、ミャンマー (Psomadakis et al., 2019)、フィリピン・パナイ島 (Matsuura, 2017)、台湾南部 (Matsuura, 2019)、

Table 1. Counts and measurements of specimens of *Abalistes filamentosus*. Pectoral-fin rays and body and head scale rows of the specimen examined in this study were counted bilaterally and were given as left-side count followed by a slash and right-side count. Data in Matsuura and Yoshino (2004) represents the range, with the mean value in parenthesis.

	This study	Matsuura and Yoshino (2004)
	Izu Peninsula, Shizuoka SPMN-PI 50217	Ryukyu Islands of Japan, Northwest Shelf of Australia, and Timor Sea Holotype and paratypes ( $n = 17$ )
Standard length (SL; mm)	266.9	216–325 (267)
<b>Counts</b>		
Dorsal rays	III+26	III+25–27
Anal rays	23	22–25
Pectoral rays	14/14	14–15 (usually 14)
Body scale rows	36/35	33–39
Head scale rows	27/27	25–32
<b>Measurements (% of SL)</b>		
Body depth	36.9	30.9–38.5 (34.9)
Body width	20.4	15.2–21.0 (17.9)
Head length	35.2	33.1–35.5 (34.2)
Snout length	25.6	23.5–25.8 (24.8)
Snout to origin of first dorsal-fin spine	38.3	36.7–40.4 (38.1)
Snout to origin of anal fin	63.0	61.0–66.7 (63.7)
Interdorsal space	23.0	19.1–23.6 (22.2)
Postorbital length	6.8	6.6–7.8 (7.1)
Eye diameter	7.8	6.4–9.4 (7.6)
Interorbital width	11.2	9.8–11.9 (10.7)
Length of gill opening	10.4	7.9–10.7 (9.7)
Length of first dorsal-fin spine	19.0	16.7–22.9 (17.6)
Length of longest dorsal-fin ray	damaged	13.0–14.0 (11.4)
Length of longest anal-fin ray	damaged	8.2–12.3 (10.0)
Length of pectoral fin	damaged	9.6–12.0 (11.0)
Length of mid-caudal-fin ray	damaged	12.9–16.0 (14.4)
Depth of caudal peduncle	4.1	3.2–4.3 (4.0)
Length of caudal peduncle	15.5	13.1–16.6 (14.9)
Length of soft dorsal-fin base	30.7	30.3–32.9 (31.4)
Length of anal-fin base	28.0	26.1–29.2 (28.2)



Fig. 3 Live fish of *Abalistes filamentosus* (SPMN-PI 50217, 266.9 mm SL), temporary kept in an aquarium. Photographed by T. Nakanishi (27 October 2020).

パキスタン (Moazzam and Osmany, 2022) から分布記録がある。日本からは、沖縄島および八重山諸島仲の神島 (Matsuura and Yoshino, 2004; 下瀬, 2021), 鹿児島県鹿児島湾および南さつま市 (岩坪, 2017; 小枝, 2022), 甌島列島中甌島 (Koreeda and Motomura, 2025), 大隅諸島馬毛島 (Motomura, 2023), トカラ列島小臥蛇島沖 (古橋・本村, 2022), 奄美諸島奄美大島および与論島 (Nakae et al., 2018; 松浦, 2018), 静岡県伊豆半島 (本研究) から記録されている。

**備考** 記載標本は第1背鰭が強大な3棘からなること、鰓孔後方に骨質の肥大鱗があること、眼の前方に前後方向に長い溝があること、尾柄部が著しく縦扁し、尾柄幅が尾柄高よりも大きいことにより、Matsuura (1980, 2001) によって定義された *Abalistes* に同定された。さらに、背鰭軟条数が26 (従来の報告では25–27), 臀鰭軟条数が23 (22–25), 頬に鱗列に沿った縦溝が3本 (3–4本) ある, 尾鰭両葉後端が糸状に伸長する, 第1背鰭は暗褐色, 体側に黄・青色斑および黄色網目状斑が存在しないことが Matsuura and Yoshino (2004) と林・萩原 (2013) によって報告された *A. filamentosus* の標徴と一致した。その他の計数・計測項目も Matsuura and Yoshino (2004) に示された本種の値の範囲内に収まることから本種として同定された。

従来の記録にある本種の分布北限は、鹿児島湾であった (岩坪, 2017)。したがって本研究で示された静岡県伊豆半島での出現は、イトヒキオキハギの静岡県からの初記録となるとともに、本種の分布北限を大幅に更新する記録となる。

本種はこれまで、オーストラリアおよび琉球列島などの熱帯・亜熱帯海域でとくに多く確認されており、分布の中心であることが示唆される。本種は、Matsuura and Yoshino (2004) によって記載されて以降、日本国内では琉球列島を中心に標本が得られている (岩坪, 2017; 松浦, 2018; 下瀬, 2021; 古橋・本村, 2022; 小枝, 2022; Motomura, 2023; Koreeda and Motomura, 2025)。これまでに確認されている本種の最大の標本 (沖縄島糸満産) は325 mm SL であり (Matsuura and Yoshino, 2004), 国内産標本は大半が20–30 cm SL の範囲内にある。今回報告する伊豆半島産個体もまたそこに含まれた。

伊豆半島に面する相模湾では、熱帯性大型魚の出現について、南方から卵や仔稚魚が黒潮によって輸送され、そのまま越冬・成長した個体でなく、成長した個体が黒潮によって南方から回遊してきた可能性が指摘されている (例えば、瀬能ほか, 2013)。本標本のサイズや出現時期を考慮すると、本個体も同様に、南方ですでに成長した個体が黒潮を利用し、偶発的に伊豆半島沿岸へ到達したものと推察される。

本種は通常、大陸棚縁辺部などの水深61–180 mにある砂泥地に生息すると考えられている (Matsuura and Yoshino, 2004; Matsuura, 2017; Psomadakis et al., 2019)。一方で水深20 m程度の環礁域において釣獲された記録も報告されており (Randall and Justine, 2008), 本個体も水深10–15 mの岩礁混じりの砂地において漁獲されたことから、本種は本来の主生息域である深場だけでなく、索餌や移動の過程において一時的に浅海域へも出現することが示

唆される。

また上述の体サイズ以外のもの（20 cm SL 未満，あるいは 30 cm SL 以上の個体）が，日本国内の水域に生息しているか否か，それらがどのような環境に生息しているかについては，依然として不明な点が多い．本種の生活史については未詳な部分が少なからず残されており，その解明に向けて，今後も標本に基づく出現記録や成長段階等の知見を蓄積していくことが極めて重要である。

## 謝 辞

静岡県賀茂郡南伊豆町の渡邊正春氏には生体を捕獲・寄贈していただいた．下田海中水族館の魚類担当スタッフには飼育に協力いただき，飼育課長の都築信隆氏には研究の支援をいただいた．また中西彩美氏，中西湊大氏，中西渚月氏には執筆の機会をいただいた．標本の固定処理や登録は，NPO 法人静岡県自然史博物館ネットワークの岸本浩和氏にご協力いただいた．Ichthy 編集委員の畑 晴陵氏には，イトヒキオキハギの分布に関する情報の提供を賜り，匿名の査読者と共に原稿について適切な助言をいただいた．これらの方々には感謝の意を表す。

## 引用文献

- 古橋龍星・本村浩之. 2022. トカラ列島の無人島，臥蛇島と小臥蛇島における魚類 57 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 23: 7–18.
- 林 公義・萩原清司. 2013. モンガラカワハギ科, pp. 1703–1711, 2235–2236. 中坊徹次(編)日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 岩坪洗樹. 2017. モンガラカワハギ科, pp. 274–275. 岩坪洗樹・本村浩之(編)火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 小枝圭太. 2022. モンガラカワハギ科, pp. 296–297. 岩坪洗樹・伊東正英・山田守彦・本村浩之(編)薩摩半島沿岸の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 枕崎・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Koreeda, R. and H. Motomura. 2025. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of the Koshiki Islands and adjacent waters, Kagoshima, southern Japan, with 353 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 21: 1–119.
- Matsuura, K. 1980. A revision of Japanese balistoid fishes. I. Family Balistidae. *Bulletin of National Science Museum, Series A (Zoology)*, 6: 27–69.
- Matsuura, K. 2001. Balistidae, triggerfishes, pp. 3911–3928. In Carpenter, K. E. and Niem, V. H. (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 6. Bony fishes part 4 (Labridae to Latimeriidae), estuarine crocodiles, sea turtles, sea snakes and marine mammals*. FAO, Rome.
- Matsuura, K. 2017. Family Balistidae, pp. 229–231. In Motomura, H., U. B. Alama, N. Muto, R. Babaran, and S. Ishikawa (eds.) *Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines*. Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- 松浦啓一. 2018. モンガラカワハギ科 Balistidae, pp. 398–402. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典(編)奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島, 横須賀市自然・人文博物館, 横須賀, 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原, 国立科学博物館, つくば.
- Matsuura, K. 2019. Family Balistidae, pp. 1286–1291. In Koeda, K. and H.-C. Ho (eds.) *Fishes of Southern Taiwan*. National Museum of Marine Biology & Aquarium, Pingtung.
- Matsuura, K. 2022. *Abalistes filamentosus*. The IUCN Red List of Threatened Species 2022: e.T193585A2243505. [URL](#) (1 Nov. 2025)
- Matsuura, K. and T. Yoshino. 2004. A new triggerfish of the genus *Abalistes* (Tetraodontiformes: Balistidae) from the western Pacific. *Records of the Australian Museum*, 56: 189–194.
- Moazzam, M. and H. B. Osmany. 2022. Report on triggerfishes (family Balistidae) from Pakistan. *International Journal of Biology and Biotechnology*, 19: 329–339.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes from Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of National Museum of Natural Science, Tokyo*, 52: 205–361.
- Psomadakis, P.N., Thein, H., Russell, B.C. and Tun, M. 2019. Field identification guide to the living marine resources of Myanmar. *FAO species identification guide for fishery purposes*. FAO, Rome. 840 pp.
- Randall, J.E. and J.-L. Justine. 2008. The triggerfish *Abalistes filamentosus* from New Caledonia, a first record for the south Pacific. *Cybius*, 32: 183–184.
- 瀬能 宏・御宿昭彦・伊東正英・本村浩之. 2013. 日本初記録のニザダイ科テングハギ属の稀種マサカリテングハギ(新称)とその分布特性. 神奈川県立博物館研究報告, 42: 91–96.
- 下瀬 環. 2021. 沖縄さかな図鑑. 沖縄タイムス社, 那覇. 207 pp.